

## ARCHITECTi1000SR を用いた NT-proBNP の基礎的検討

◎八竹 基哉<sup>1)</sup>、後藤 雪乃<sup>1)</sup>、仲本 知代<sup>1)</sup>、松雪 貴哉<sup>1)</sup>、神谷 志穂<sup>1)</sup>、大西 紀之<sup>1)</sup>、長屋 麻紀<sup>1)</sup>  
地方独立行政法人 岐阜県総合医療センター 中央検査部<sup>1)</sup>

【はじめに】NT-proBNP は心筋細胞の負荷増加によって分泌される BNP の前駆体 proBNP の N 末端フラグメントである。NT-proBNP は生理活性を持たないため BNP と比較して半減期が長く、血清でも安定していることから臨床においても使用しやすい。また BNP と同様に心室の負荷を反映する指標として、心不全の早期診断などに有用である。今回、今年度当検査室で予定されている検査機器更新に伴う、測定機器集約化を目的として、アボットジャパン合同会社(以下アボット社)の NT-proBNP 試薬「Alere NT-proBNP・アボット」(以下 Alere NT)について、ARCHITECT i1000SR (以下アキテクト) を用いた基礎的検討および、現行測定機器である cobas e411(ロシュ・ダイアグノスティクス社:以下ロシュ社)との比較を行ったので報告する。

【機器・試薬】検討機器/試薬:アキテクト/Alere NT (アボット社)。対象機器/試薬:cobas e411/エクル・シス NT-proBNP II (ロシュ社)

【対象】2023 年 6 月～8 月に当院検査室に NT-proBNP の依頼があった残血清 50 検体、および精度管理試料 3 濃度。

【方法】アキテクト(アボット社)にて Alere NT 試薬の①同時再

現性、②日差再現性、③検体保存安定性、④対象機器との相関性を評価した。

【結果】①同時再現性:精度管理試料 3 濃度を各 10 回測定した CV%は 2.7～3.4%であった。②日差再現性:精度管理試料 3 濃度を 5 日間各 2 重測定した CV%は 2.2～3.5%であった。③安定性:患者検体について室温(25°C)、冷蔵(2～8°C)、凍結(-30°C)の 3 種類の保存条件における安定性を確認した。各保存条件にて、1 日、3 日、6 日間(室温は 1 日、3 日のみ)保存し、それぞれ 2 重測定した結果、各保存条件における安定性を確認できた。④相関性:患者検体(n=50)を用いた対象機器:cobas e411 との相関は、相関係数  $r=0.999$ 、回帰式  $y=1.13x-26.85$  であった。

【まとめ】検討の結果、Alere NT の同時再現性、日差再現性、検体保存安定性で良好な結果が得られた。また cobas e411 との相関は良好であり、アキテクトにおける NT-proBNP 測定は有用であると考えられた。

連絡先：058-246-1111(内線 2676)